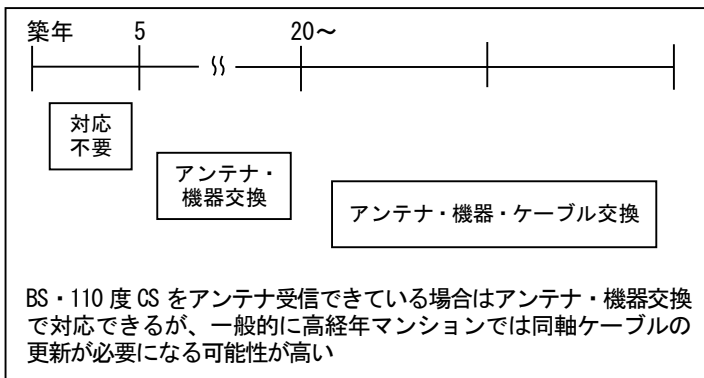


新4K8K衛星放送チャンネル

	B S	C S	備 考
右 旋	NHK BS4K※ BS日テレ4K BS朝日4K BS-TBS4K BSテレ東4K BSフジ4K		BS・110度CSが視聴できれば視聴可能
左 旋	WOWOW4K※ ショップチャンネル4K 4K QVC NHK BS8K※	J SPORTS 1 4K※ J SPORTS 2 4K※ J SPORTS 3 4K※ J SPORTS 4 4K※ 日本映画+時代劇 4K※ スターチャンネル 4K※ スカチャン1 4K※ スカチャン2 4K※	アンテナ・機器交換が必要

総務省資料を基に作成。※は有料放送

施設改修による対応イメージ



4K8K・主な対応方法

- 共聴施設の改修
- 施設改修 (機器設置)
- 放送事業者のサービス導入
- 個別アンテナの容認

施設改修で、どの程度の対応が必要になるかは現状の共聴設備環境によって異なる。BS・110度CSが視聴できている最低限の機器

交換で済む可能性が高いが、アンテナ受信ができていない高経年物件では、機器の更新が迫られるケースもあり、この場合改修費用はさらに膨らむ(図に改修による対応のイメージ)。

同軸ケーブルの更新については費用だけではなく、「使い勝手」の面からもリスクがあり、都内の設備業者は「他に使い道がない同軸ケーブルをわざわざ更新するのはどうか。今後を考えると、ファイバー引き換えの方がいい」と解説する。機器交換に伴う労苦もある。テレビ端子の交換に際しては、専有部分の立ち入りが必要になるから、このための改修時、端子交換を「個別対応」とする方針を打ち出し、立ち入りの手間を緩和する管理組合もあるという。

BS・110度アンテナが設置されている場合は、改修を実施する際に国の助成金を使える可能性がある(2017年管理新聞11シ

8年度に始めた「衛星放送受信環境整備事業」が利用できれば、増幅器や分配器といった機器の交換費用については、成金を得られる。助成率は最大で機器代・工事費の2分の1に及び、条件が合

改修に多額の費用や手間がかかる場合「アンテナ・機器交換」ではなく、放送・通信事業者が行うテレビ視聴サービスを導入する動きも目立つ。導入費用は生じるが、全面的な改修に比べ、コスト面でメリットが大きい。基本的な管理組合として、専有部分の立ち入りが必要がないのも利点だ。実績は少ないが、一定の条件に合致していれば既存の施設環境で放送を視聴できる機器も発売されている。

4K8Kを視聴するには、さまざまな方法がある。全面改修だけが選択肢ではない。(管理新聞11シ

アンテナ・機器交換が不可欠

2018年12月にスタートした「新4K8K衛星放送」。従来のテレビ放送と比べて映像の解像度が高い超高精密な放送だが、BS・CSをアンテナで受信している既存マンションでは、全ての放送を視聴するには共聴施設の改修を実施する必要がある。相応の費用がかかるというわけだ。どんな対応を取ればベターなのか。管理組合の対応例を通して考えてみる。

新4K8K衛星放送は、従来のBS・110度CSで使用されてきた「右旋円偏波」と呼ばれる電波に加え、「左旋円偏波」を使い放送を行う。右旋円偏波を使用する4K放送は、現在BS・110度CS放送をアンテナで共有している場合、左旋が使用される。周波数帯域は224MHz〜322MHz。一方、左旋円偏波を使つて放送されるチャンネルを視聴するには、まず共有チャンネルを視聴するにまじり、アンテナを交換する必要がある。既存のアンテナは右旋放送にしか対応していないから、左旋が使用される周波数帯域は224MHz〜322MHz。ガヘルツと高周波数のため、分岐器や分配器、増幅器、また各住戸のテレビ端子なども高周波対応の機器に交換する必要がある。

中には改修対応が必要ない場合もあるが「おおむね2018年以降に新築されたもの」(放送関係者)とされ、築4年程度までの築浅物件に限られるそうだ。

◇

施設改修で、どの程度の対応が必要になるかは現状の共聴設備環境によって異なる。BS・110度CSが視聴できている最低限の機器

共聴設備環境によって異なる。BS・110度CSが視聴できている最低限の機器

共聴設備環境によって異なる。BS・110度CSが視聴できている最低限の機器

編集後記：東京オリンピックが始まり、それとともに新型コロナウイルスの感染も拡大しています。オリンピックまでに4K・8Kが受信できるようにマンションにおいても改修が進むのではとの業界の目論見？(あくまでも私見)どおりには進んでないようで、若者のテレビ離れ、高齢者は新しい仕組みに付いていきにくいという現実を突きつけられている。アメリカでも新型コロナ下でもオリンピックが始まれば高視聴率がとれると踏んでいたオリンピックの視聴率が低水準で業界の目論見は外れたようだ。様々な視点で多様化が進展し、今までのようなマスの考え方が通用しない時代に入ったということなのか。